



渡航される方の予防接種について

海外渡航に際して渡航地域、期間を考慮して予防接種を行うことをお勧めします。当院では主に東～東南アジア、西欧諸国への渡航に対応します。輸入ワクチンは扱っておりません。小児期からの予防接種歴を考慮しますので母子手帳やその他接種記録を接種時に持参してください。

① **A型肝炎**（いわゆる先進国では不要）

1ヶ月間隔で2回、6ヶ月から2年でもう1回接種すると約10年有効です。ウイルスを含んだ食べ物、水などから感染し急性肝炎を起こし1-2ヶ月で回復します。まれに劇症化します。

② **B型肝炎**（長期間なら世界中どこでも）

1ヶ月間隔で2回、6ヶ月から2年でもう1回接種すると約10年有効です。成人では免疫がつきにくい方がみえますので(25%程度)、3回目を接種する際かその後に採血の機会を利用して、抗体価を検査しておくことをお勧めします。体液を介してスキンシップで感染し、急性肝炎・劇症肝炎となる場合もあれば、慢性化して肝硬変、肝細胞がんを引き起こす場合もあります。

③ **日本脳炎**（アジアで必要）

小児期に3回予防接種を受けている場合は1回または2回（20年以上たっているとき）追加します。接種歴がない場合は1ヶ月間隔で2回、6ヶ月から2年でもう1回接種すると約10年有効です。豚がウイルスを保有し、蚊が媒介して感染します。発症率は高くありませんが、脳炎を発症した場合の死亡率、後遺症率は高いです。

④ **破傷風 / 破傷風トキソイド または 3種混合**（世界中どこでも）

破傷風は昭和44年4月以降では小児期に混合ワクチンとして4~5回接種されていることが多く、接種歴があれば1回追加します。昭和43年以前生まれの方や接種歴のない方は1ヶ月間隔で2回、6ヶ月から2年でもう1回接種します。破傷風は傷から侵入し、次第に全身に痙攣が起きて集中治療が必要となり死亡率も高い病気です。3種混合ワクチンを用いると、破傷風だけでなくジフテリア・百日咳に対する効果も得られますのでお勧めです。

⑤ **麻疹、風疹、水ぼうそう、おたふくかぜ**（世界中どこでも）

小児期に予防接種を受けているか罹患していることが多いですが、成人期には抗体価がさがっている場合があります。日本では麻疹、風疹とも減っていますが、最近の流行時は成人が中心です。現地でかかることの予防にも、日本からの輸出を予防するにも、抗体価を測定し、不足なものは追加接種をするのがお勧めです。S37年4月2日～S54年4月1日生まれの男性は風しん定期接種の対象ですので保健センターが発行するクーポンをご利用ください。

接種当日は激しい運動は避けてください。入浴は問題ありません。接種後数日は接種したところが腫れることがあります。しこりができることがあります。1ヶ月程度で消失します。

★渡航先での感染症予防★

消化管から・・・生ものの摂取、不衛生な屋台での食事（飲み物の氷も注意）は避けましょう
体液から・・・出血（カミソリ・針治療なども注意）、体をぶつけるスポーツ、性行為
蚊やダニが媒介・・・虫除け対策
動物にかまれた・・・狂犬病予防のためすぐ病院へ、犬だけではありません